

現地の主なパートナー紹介

CMIP (Catholic Mission to the Indigenous People, Inc./先住民族のためのカトリック宣教団)

1996年の会発足以来のパートナー。ミッション校の教師16名、事務スタッフ2名、担当神父4名等の人件費は現地の資金で賄っています。当会の医療・教育支援費は、辺境の村の巡回診療や小学生からカレッジまでの奨学金として使われ、最貧層の住民や子どもたちに直接届いて、結果がはっきり分かる良さがあります。

PIHS (Pasasambao Integrated Health Services, Inc./パササンバオ総合医療サービス)

2000年からのパートナー関係。看護師のナブサさんを代表とする医療チームで、保健ボランティア育成など、住民が主体的にモロの村の健康を守る活動をしています。当会はセミナーやスタッフ給与補助などを、おもに助成金によって応援してきました。

COWHED (Cooperative of Women in Health and Development/女性の健康と自立のための組合)

同じく2000年よりティナラク織研修やスタッフ給与補助などで支援を開始。現在は、ハンディクラフトの地元需要が増えたほか、ILO支援でマイクロファイナンス事業も始まり、当会は日本での製品販売や組合員の子どもの奨学金などに支援を限定しています。ネニータ組合長、ジェマ・マネージャー以下組合員はティナラク織手等218名です。

PFP (Partners for First Peoples Foundation, Inc./先住民族のパートナー)

2002年山口県のNPO法人「少数民族里親の会/FOT」解散を受けて、一部会員とブラクール支援、環境保全事業を引き継いだ結果パートナーとなった農業専門家チーム。以降森林農業で協働。若手のニックさんが中心になっています。

SCMSI (Santa Cruz Mission School Inc./サンタクルスミッション学校法人)

2013年6月、「チボリ国際里親の会」活動終了に当たり、支援継続希望会員を迎えて、現地協働団体も引き継ぎ、パートナーに加わった。小学校からカレッジまで6校からなる学校法人代表はチボリ民族のガンダムさん。

事務局スタッフ3人体制になりました

井上繭子さん 新スタッフ。語学が堪能で、里子や奨学生情報を皆さんにお伝えする業務が主です。

藤川さん 会計や会員管理のほか、五十嵐さんとともに、ホームページ改訂を担当することになりました。

五十嵐さん 都合により有給勤務が難しくなり、ボランティアスタッフとして、パンフやホームページなど広報担当になりました。会の継続性、組織には運営費の増加が必須です。皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。(山崎)

9月より運営事務スタッフの一員となりました、井上です。

今までは子育て中心の生活でした。下の子どもが小学校に上がり、時間に余裕が出てきた折に、HANDSの事務スタッフのお話をいただきました。

HANDSでの仕事は支援事業が5つあり、その現地協力機関の略称名(PIHS, COWHED, CMIP...) それから基金名、と覚えることがたくさんあります。事務の仕事も会員管理、会計から英文和訳など多岐にわたります。事務経験はあったものの、約10年休憩していた私の頭は、今ではもうフル回転です。

HANDSでの仕事を通して、遠い国でも人と人とは支えあって生きているんだなと実感するとともに、私のやっていることの責任も感じています。会員の皆様の暖かいご支援が現地にスムーズに届くよう、事務スタッフとして頑張ります！どうぞよろしくお願いいたします。(井上)



平成25年度第2回理事会報告

9月28日、青葉区区民活動支援センターで、理事4名が出席(他評決委任3名)して開催。上半期の予算の収支実績に基づいて、予算と大きな差異のある項目に関して審議した。うち、予算では150万円としたが、最終的に220万円と確定したJOFPA基金(JOFPAから引き継いだ残余資産)について、その報告とともに、使途に関する方針が審議された。その結果、看護師、助産師など国家試験を必要とする職種を中心とする奨学金とし、次年度以降、SCMSI他の現地パートナー団体に対して、候補者選抜を依頼することで合意。その他、助成金事業の現況報告、チボリ子ども支援に関するSCM学校法人との覚書、事務局スタッフ井上さんの雇用も承認された。最後に、河原理事による三井物産環境基金交流会参加に関する報告があった。(山崎)